

4. PCソフトウェア eXport

1. eXportソフトウェアを起動させます。
2. **ファイル** → **新しいプロジェクト**を選択してプロジェクトを作成します。



3. セーブされた結果をeXportにインポートします。

- ・WX4500本体からインポート: **インポート** → **デバイス**を選択して結果をインポートします。
- ・USBからインポート: **インポート** → **USBドライブ**を選択して結果をインポートします。
- ・PCからインポート: **インポート** → **PCから**を選択して結果をインポートします。

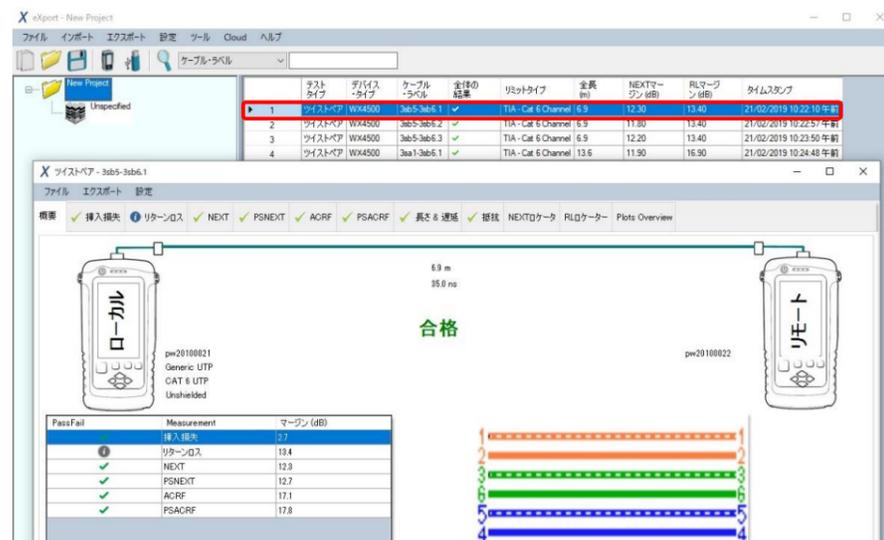


4. セーブされた結果をエクスポート(出力)します。

- ・PDF形式: **エクスポート** → **PDF** → **概要** or **詳細**を選択して結果を出力します。
- ・CSV形式: **エクスポート** → **CSV** → **概要** or **詳細**を選択して結果を出力します。



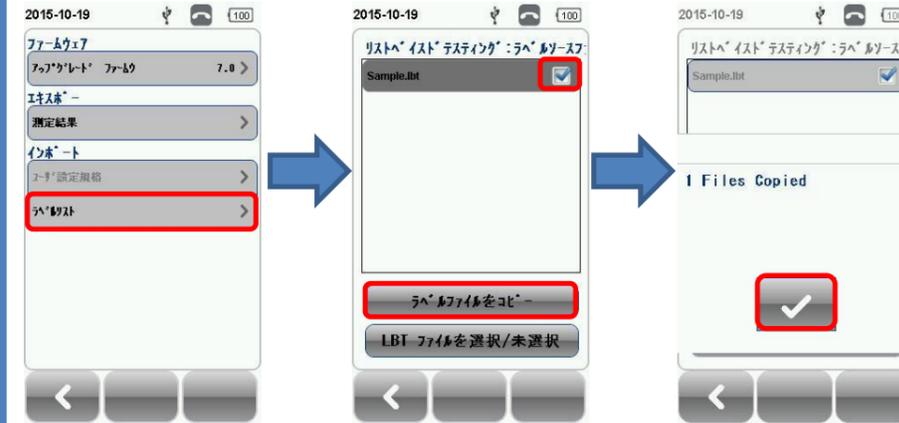
5. インポート後、結果リストをダブルクリックすると結果の詳細が別画面で表示されます。



リスト ベイスト テスティング

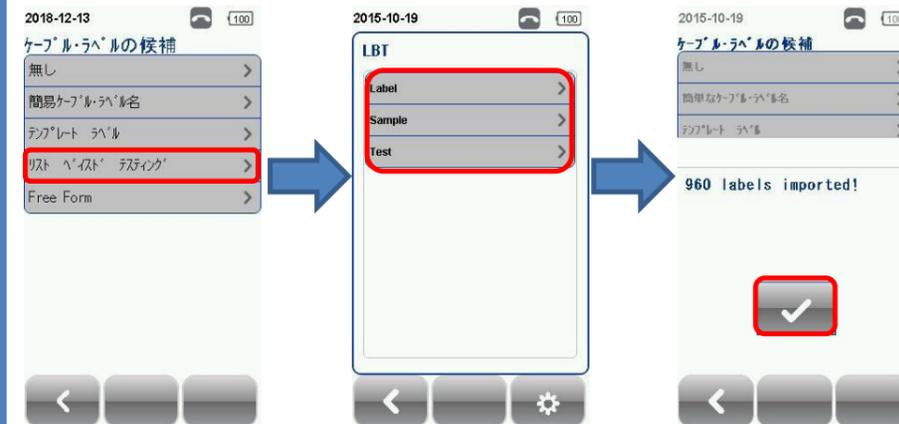
リスト ベイスト テスティング機能は、PCソフトウェアのeXportでラベルリストを作成します。作成したラベルリストをワイヤーエキスパートにロードして使用します。

1. PCソフトウェアeXportで作成したラベルリストをUSBにコピーします。
2. ローカルユニットにUSBを挿入します。
3. **ラベルリスト**を選択してインポートしたいファイルを選択します。(USB自動認識)
4. ラベルファイルをコピーを選択します。ファイルがコピーされます。



5. **SETUP** → **プロジェクト設定** → **ラベル名の候補** → **リスト ベイスト テスティング**を選択します。

6. リストからラベルソースを選択します。自動的にインポートされます。



5. **【AUTOTEST】**を押すとラベル一覧表が表示されます。ラベルを選択するとオートテストが始まります。

6. 合格(PASS)の場合は、自動的に保存されます。

WireXpert

クイック・スタート・ガイド

エンサークルドフラックスアダプタ(MM-EF)



マルチモードファイバの認証試験は、測定過程の固有の不確実性のための議論に問題視されてきました。ISO/IECとTIAは、マルチモード用のテスト装置で使用される光源の発光条件を標準化するエンサークルドフラックス(EF)を採用しました。

新しいMMEFアダプタは、これらの新しく厳しい基準に適用できるように設計されています。全てのMMEFテストセットには、トランスペアレントコードが含まれています。そのため高価なランチコードが必要ありません。アダプタのVFLは、ファイバの故障箇所を直接の目視を可能にします。

MMEFアダプタセット (WX_AD_EF_MM2)

構成

- MMEFテストアダプタ(波長850/1300nm LED光源) × 1セット
- FC-SCトランスペアレント リファレンスコード(2m) × 2本
- SC-SCトランスペアレントコード(2m) × 2本
- 2ジャンパー用SC-SCカブラ
- クリーンキット(コネクタ清掃用)

< オプションキット >

- LCコネクタコードキット
- STコネクタコードキット



1. SETUP



> 設定

・シングルエンド/デュアルエンド

シングルエンドはローカルユニットのみを使用してリファレンスとオートテストをループバックで実行します。デュアルエンドはローカルとリモートユニットを使用してリファレンスとオートテストをEnd-to-Endで実行します。

・1/2/3ジャンパーリファレンス方法

要求に応じて1,2,3ジャンパーからリファレンス方法を選択します。3ジャンパーの場合には、追加のリファレンステストコードが必要です。

・単一方向/双方向

単一方向は、ファイバ1をローカルTXとリモートRX、ファイバ2リモートTXとローカルRXを接続テストを実行します。双方向は、TXとRXの接続を交換して2回テストを実行します。



> プロジェクト設定

・現場

AUTOTEST結果を保存するフォルダーを作成します。

・作業名

作業名を作成します。

・ラベル名の候補

AUTOTEST結果保存のためのラベリング方式を作成します。手動で入力する場合は、NONEを選択します。eXportで作成したラベリング方法は、リスト ベイスト テスティングを選択します。

・自動保存

有効時は、結果がPASS(合格)時のみ自動で保存されます。オプションは、リスト ベイスト テスティングのために有効です。

> テスト条件の設定

リファレンス設定またはオートテストを実行する前にテスト条件の設定→テスト規格→標準の規格からテスト規格を選択します。測定リンク内にコネクタおよびスプライスがある場合は、数を入力します。1/2/3ジャンパーを選択するおリファレンス設定およびオートテスト間で使用されるコネクタ数は、自動的に含まれています。



ケーブル設定

テスト条件の設定→ケーブルからケーブルメーカーを選択します。メーカーが不明の場合はGeneric SMFもしくはGeneric MMFを選択します。カスタム仕様の場合は、Customized Cableを選択して設定します。



2. リファレンス設定

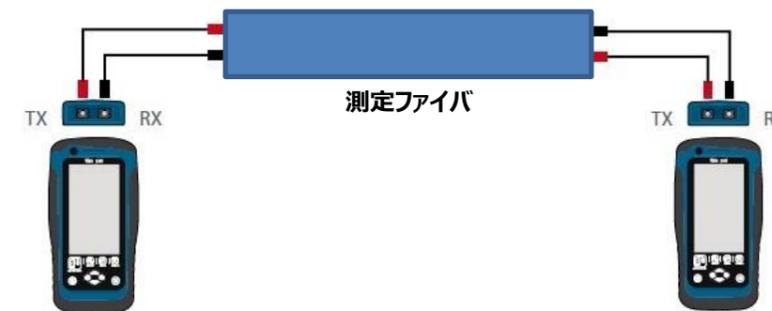
1. 添付のクリーナーでテストコードとアダプタを清掃します。
2. リファレンス方法を選択します。添付のテストコードを使用して、画面の接続方法を参考にリファレンス設定を行います。
3. 接続を確認して、基準値の設定の">"をクリックしてリファレンス設定を実行します。
4. リファレンス値が-3 ~ -9dBm以内に入っていることを確認します。
(シングルモード、マルチモード同じ値です。)
5. 1ジャンパーリファレンス設定の場合は、確認テスト実行します。
(詳細は、クイックマニュアルを参照してください)

	シングルモード (SM)	マルチモード (MM)	エンサークルド フラックス (MM-EF)
リファレンス設定	-3 ~ -9dBm		-18 ~ -20dBm
確認テスト	0.2dB		0.1dB



3. AUTOTEST

以下のようにローカルユニットとリモートユニットの間に測定ファイバを接続します。



【AUTOTEST】ボタンで認証テストを実行します。

AUTOTEST結果の表示

AUTOTESTの後に各波長の最悪値のサマリー結果が表示されます。

波長をクリックすると詳細結果を確認できます



AUTOTEST結果の保存



テスト結果は、【保存】ボタンで手動で保存することができます。自動保存が有効の場合または、リストベイトテストモードの場合は、合格(PASS)時のみ自動で保存されます。不合格の場合は、手動で保存することができます。